

第4回 日米韓三極協議

日時： 2007年5月31日

場所： 日本国際問題研究所大会議室

主催： 財団法人 日本国際問題研究所 (J I I A)

全米外交政策委員会 (NCAFP)

韓国国際政策研究院(IPSIKOR)

参加者一覧

【日本側参加者】

Amb. Yukio Satoh

President of Japan Institute of International Affairs

Prof. Kenichi ITO

President of Japan Forum on International Relations, Inc.

Prof. Fumio OTA

Director of the Center for Security and Crisis Management Education of
National Defense Academy

Prof. Hajime IZUMI

Professor of University of Shizuoka

Prof. Akio Takahara

Professor of University of Tokyo

Mr. Seki Tomoda

Director-General of Japan Institute of International Affairs

Mr. Takashi OSANAI

Deputy Director-General of Japan Institute of International Affairs

Dr. Satoru Miyamoto

Research Fellow of Japan Institute of International Affairs

【米国側参加者】

Amb. Nicholas Platt

President Emeritus of Asia Society

Mr. Alan Romberg

Senior Associate of The Henry L. Stimson Center

Prof. Robert A. Scalapino

Professor Emeritus of Institute for East Asian Studies
University of California-Berkeley

Dr. George D. Schwab

President of National Committee on American Foreign Policy

Prof. Donald S. Zagoria

Trustee/Project Director, NE Asia Projects of National Committee on American
Foreign Policy

Ms. Sheila Platt

【韓国側参加者】

Prof. Young-Koo CHA

Visiting Professor of Graduate Institute for Peace of Kyung Hee University

Prof. Sung-Joo HAN

President of Korea University
Former Minister of Foreign Affairs

Prof. In-Taek HYUN

Director of Ilmin International Relations Institute
Professor of Political Science & International Relations of Korea University

Prof. Ho-Sup KIM

Professor of Choong-Ang University

Amb. Young-sun KIM

Minister of Korean Embassy in Japan

Amb. Kun-Woo PARK

President of Kyung-Hee Cyber University

Former Vice-Minister of Foreign Affairs & Trade

Mr. Joon-Wang LEE

Army Captain of Japanese National Defense Academy

Ms. Eun-Sook CHOI

Manager of International Policy Studies Institute of Korea (IpsiKor)

Dr. So-il HONG

Program Director of International Policy Studies Institute of Korea (IpsiKor)

セッション1：2008年の台湾総統選挙と展望：対話再開の条件

このセッションでは、台湾の総統選挙について論議した。米国からの報告に対して日米が質問する形式であった。報告によると民進党か国民党の問題は、憲法問題とも絡んでくるが、一つの中国というものの定義をめぐる争いになってくる。しかし、これは経済の問題と密着している。台湾経済は大陸と深い関係があり、台湾人も大陸を無視できるわけではない。選挙では、結局、両党共に中立的な立場になってくるであろう。また、米国は大陸との関係を重視しているので難しい立場にある。台湾は軍事面で米国に頼っている。しかし、一方で米国と大陸の経済関係はますます強まっているのである。

討論では、韓国側から台湾内の政治について質問があった。外省人と内省人の争いについての質問があった。米国側は、世代がへるにそういう区別は意味がなくなっており、台湾人というものが増えていっていると答えた。中国は日本の台湾政策をどう考えているのかという質問があったが、米国側は基本的に中国が重視しているのは米国との関係であると答えた。日本側からは1972年以来、日本は台湾よりも中国を重視している旨、発言があった。米国からは、中国でも若い世代と古い世代でも台湾を見る視角が異なるし、台湾の多くは現状維持を望んでおり、それは台湾と大陸双方で望む声が多い。日本側から韓国の統一についてのビジョンについて質問があった。韓国側は兩岸ともに軍事衝突を望んでいないであろう。日本側からどういう状態が米国にとってよい状態なのかという質問があったが、兩岸が共存している状態が望ましいという回答があった。

セッション2：朝鮮半島の非核化：北東アジアの安全保障への地域的アプローチ

このセッションでは、朝鮮半島の非核化について論じた。日本側の報告者からは、現在、BDA（バンコ・デルタ・アジア）問題と HEU（高濃縮ウラン）問題がネックになって六カ国協議の合意による初期段階が進んでいない。このまま核施設の凍結は可能かもしれないが、北朝鮮は非核化をすぐにはしないであろう。しかし、日本は拉致問題のために孤立することを避けねばならないと報告があった。韓国側の報告者は、北朝鮮の BDA 問題というのは国際金融社会で自由な活動ができるようにすることであり、朝鮮半島の非核化というのは、HEU を含むすべての核施設、物資をなくすことを意味する。これを実現するために、韓国は今年から朝鮮半島の平和協定のテーマに取り組み始めたと報告した。米国の報告者は、ブッシュの取っているエンゲージメント政策は他の方法よりも非常に良いものであり、北朝鮮を孤立させることは不可能なのだという意見を述べた。また、米国側から北朝鮮は中国を恐れているのではないかという意見があった。最後に、日本側の質問者から、日本が孤立しているというのは間違った認識であるという意見があった。

セッション 3：鍵となる相互的な地域関係：関係を強化する方法

このセッションでは日米韓における二国間の関係について論じた。日本側の報告者からは、日韓関係における竹島をめぐる日本の立場を論じるとともに、北朝鮮のミサイルに対する日米の安保協力体制について論じた。韓国側の報告者からは、日韓関係には北朝鮮問題と歴史問題という二つの問題があると論じた。日韓関係は民主主義など共通する問題が多いが、靖国、従軍慰安婦、竹島など歴史パースペクティブが異なる。民主主義が確立し、未来志向の日韓関係を構築するという金大中・小渕両首脳の合意があったが、現在の日韓関係を修復する方法はないとの報告があった。また、米韓関係については、米国の対北朝鮮政策が変化したために韓国内の反米感情は弱くなり、FTA 締結に成功して米韓関係は良くなったとの報告があった。ただし、同盟の未来像を出すことには成功していない。米国側の報告者からは、日米関係は 80 年代などに比べると経済摩擦もほとんどなくなり、日米同盟の変革も進み、非常に良くなったと報告があった。そして、米韓関係に関しては、やはり問題も残されていると述べた。

（報告：宮本悟 日本国際問題研究所研究員）